

## 事業報告書（令和4年度）

事業名 映像作品「岡山の偉人を愛でる 池田藩主編」

団体名 劇団公民館京山 担当者名 鴨井 典栄

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

<b>1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）</b>
日時：令和5年1月29日（日）13：45～15：30 場所：岡山市立京山公民館 人数：8名 内容：第18回京山ESD・SDGsフェスティバルにて映像作品を放映した
<b>2. ESDの視点</b>
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか 一つの作品作りの中で、お互いに意見を出し合い、協力することで、お互いの持つ個性や可能性について理解し、尊重し合うことができた。また伝えたい内容ごとに、どのような撮影場所が良いか意見を出し合い、その場所を訪れることで、作品への理解が深まっていた。さらに映像制作を通じて気付いた、人と人との関わりや繋がりを更に深めたいという、今後の方向性を得ることができた。
② どのように学び合いを取り入れたか 作品制作を通じ個々に役割を持たせ、互いを認め合い、高め合えるように、話し合いの時間を十分にとった。また、題材とした岡山の歴史文化の学びを深めていく中で、岡山藩に置ける京山地区に対する関心も高まり、地域の方との結びつきを深めた。
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか 撮影場所での行動において、協調性を意識させることに重点を置いた。また、公民館という地域コミュニティとの関わりにおいても、協力しながら「作品を作り上げる」という目標を持たせた。今回新たな試みとして、「今後の作品作りの在り方」について、観覧者を含めディスカッションを行った。
<b>3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）</b>
「お互いの個性を尊重する気持ちで、一つの作品を創り上げる」という目標に対し作品制作を通じ、人と向き合い又、自分と向き合うことで「想いを伝える」表現力とお互いを理解する力を学んだ。またこのことで、人々の多様性がある社会について、理解し受け入れていく動機になればと考えている。
<b>4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）</b>
3年間、映像制作を行ってきたが、どうしても限られた中での作品発表となった。今後の展開として、様々なメディアを通じての発表という方法もあるが、より作品としての価値を広めていくためにも、映画（短編）製作を検討していきたいと考えている。